
究極バーサークスV S 至高ヴェルセルクス

川崎真人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

究極バーサークスVS至高ヴェルセルクス

【Nコード】

N0088Y

【作者名】

川崎真人

【あらすじ】

二人のストーカーが互いの存在を抹消しようと迷惑な争いはじめたぞ！ どうしよう！

（前書き）

アクセスありがとうございます。

横断歩道を渡るおばあちゃんの荷物を持ってあげている、ハンマーで殴ったくらいじゃ転ばなさそうなほど姿勢の良い大柄な好青年が、私の方に気付いて手を振りました。

おばあちゃんにお礼を言われ、素敵な誠実スマイルでそれを応対した好青年は、普段より割合加速気味の足取りでこちらに向かってずんずん進むと、ハーブの香りと一緒にわたしに向かって言葉を吐き出しました。

「おかえりなさい芥川さん。今日は遅くなりましたね。家まで送りますよ」

近所でもないのにわたしの帰宅時間を知っているこの人は、七ヶ月と十三日間わたしのストーカーをしている中本くん。家で十七匹の爬虫類を飼っていて、ヘビやカエルが生きたマウスを捕食する動画を週に二回ネットに投稿することを日課にしているらしいです。

仕事は（まだ）法的に認められている植物の根の密輸入、趣味は自慢のデジタルカメラでわたしの生写真を撮ること。一日に最低十六回は撮影しないと落ち着かないそうですよ。

それからわたしは、一度も教えたこともないのにわたしの住むアパートの場所を知っている中本くん、アパートの前まで送ってもらいました。「それではごきげんようさようなら」キメ顔でそう言って立ち去りました。

中本くんが一応姿を消したのを確認してから、わたしはがアパートの階段を登りはじめました。二階の踊り場まで来たところで、背後から張りのある声が聞こえてきました。

「あの。これ、落としましたよ」

怜悯な声でそう言ってきらりと眼鏡を光らせたのは、スマートな体つきで頭の良さそうな顔の村上くん。このアパートで一人暮らしをしている国立大学の学生。自分で学費を稼ぎながら勉学にいそし

み、勤勉な人柄でアパートのみんなから慕われています。将来の夢はクリーニングショップの店員になることと、主に下半身を撮影するDVDに男優として出演すること、趣味は女装とストーキング。わたしのベランダからまだ湿った下着を持ち帰り、綺麗に洗いなおして届けてくれる素敵な男性です。

「そうですか。申し訳ありません」

どうやらハンカチを落としてしまっていたようです。自分は一階に住んでいるのに、なんでか二階の踊り場で立っていた村上くんから受け取ったハンカチは、そこはかたなく生暖かく、何やら短めの縮れ毛が三本ほど付着していました。

「いいえ。お気になさらず」

村上くんはクールな声でそう言って颯爽と身を翻しました。わたしはすぐに自分の部屋に戻ると、今日中本くんと村上くんにしてもらった親切な行いを思い出し、二月前から雇っている私立探偵に電話をかけます。

ふと窓の方を覗くと、アパートの下でどういう訳かこちらに向かつてカメラを向けている中本くんが、突如としてやってきた村上くんと、お互いの人格そのものを否定するかのごとき罵り合いを始めるのが見えたので、わたしは静かにカーテンを閉じました。

私立探偵の証言によると、中本くんと村上くんがお互いの存在を知って争いを始めたのは今から一ヶ月前のこと。

それはある日、日々の日課にしたがって村上くんが、わたしの部屋のベランダに忍び込んだ時のこと。わたしの部屋のトイレでくんだ水で炊いたお米をお茶碗によそい、程好く湿ったわたしの下着の上に乘せ食事を始めた村上くんを、二十万円のデジタルカメラを持って突撃して来た中本くんが撮影したのがことの始まりです。

芸術的精神に基づいた文化的活動の一環として、女性の私生活の隠し撮りを慣行しようとしていた中本くんでしたが、村上くんの姿を見付けたことで予定を変更。町の平和を間持つ善良なる一市民と

して、家宅訪問の証拠写真を警察に持ち込もうとした中本くんでしたが、その類まれな洞察力でそれに気付いた村上くんが即座に中本くんの自宅に侵入。ワシントン条約をぶっちぎった爬虫類が飼育されているのを発見し、それを誘拐すると同時に隠滅不能な証拠を獲得することに成功。拮抗状態を発生させました。

お互いの破滅に繋がる情報を持った中本ちゃんと村上くんは、お互いのことを始末しようと、三日に四回の割合でアスファルトの上でインファイトを繰り広げているという話です。

このまま状況を放置していれば高確率で死人が出ることには気付いたわたしは、どうにかしようと私立探偵に相談しました。それに答えた私立探偵曰く、自らの存在のことごとくを愛というロマンスに注ぎ込んだ狂戦士を力づくで止めるのは不可能であり、仮に殺害したところで、怨霊となってわたしの首筋や内腿あたりを飛び回るようになるということでした。

愛に生きるべく、モラルと常識とかけがない何かを捨て去った狂戦士を止める為には、もっと根本的なところで彼らを挫いてやらねばなりません。その為に必要なのは彼らの心のよりしるを絶つことです。具体的には、尻の穴にスーパーボールを十個詰め込む一発芸を披露するおっさんが、裸足で逃げ出すくらい滑稽で無様な行いを、二人の前でしてみせることが有効だというのでした。

確かに二人が幻滅してわたしのストーカーでなくなれば、彼らの争いもなくなるに違いないのですが、しかしそのような滑稽な行いなどいくら考えてもわたしは思いつきません。困っているわたしに私立探偵が鼻息荒く提案したのは、以下のような滑稽な行いでした。

まず、大人気アニメ「魔女っ子チェリーちゃん」の主人公のコスプレ衣装の要所をハサミで切断し、下半身ジーンズ上半身下着のみという格好の上からそれを着用。マジカルステッキの代わりにバーのようなものを手に取って、二人の狂戦士の前で変身。マジカルパワー全快で必殺技を放つというものでした。

個人的な用があるということで二人を人気がない路地に呼び出し、本当にそんなんで良いのかと思いつながら、藁にもすがる思いでわたしは全力でそれを行いました。「マジカルチェリー、メイクアップ！」叫んでいそいそと二人の前で着替えを行い、バールのようなものを振り回してガラス窓を二枚割ってから「チェリーストライク！」絶叫し、ほとばしるマジカルパワーによって二人のハートを冥王星の彼方まで吹っ飛ばしてみせました。

すると二人は顔を見合わせ、二十六秒ほど停止したところで、歓喜の笑みでこちらに向かって突撃しました。この世に存在するありとあらゆる幸福をその身にし空も飛べそうな表情で、気持ち三センチ程地面から浮いてこちらに向かって飛び込んでくる二人をマジカルステッキで殴り倒すと、わたしはあまりの恐怖に泣きながら路地裏を脱出しました。

動物園から逃げ出したノイローゼのキリンを見るような人々の視線から逃れるわたしに、どこか上気した息を放つ私立探偵が優しく声をかけました。「良かったよ。最高だ」バールのようなマジカルステッキで探偵頭を殴りつけ、詐欺だ詐欺だと貯金を失ったショックで精神病を引き起こした幽閉患者のように叫びながら、帰り着いた家には中本さんと村上くんが先回りをしていました。

窓を割って侵入した二人は、チェリーを毎週に渡って誘拐することと定評のある悪役「触手魔人」の格好で、わたしの部屋の机に仁王立ちしお互いの首を絞めあっています。わたしは素早くマジカルバルサンを散布すると、全力でこちらに向かってくる二人の触手魔人を相手に、泣きながら逃走を図りました。

二人の触手魔人が国家権力によって速やかな退散を余技なくされた、その日からいくばくかの時が経過しました。

近所を歩けば町の子供たちから「あ。チェリーのお姉ちゃんだ！」と指をさされる生活も、時間がたてば慣れるものです。アパートの住人からは、温室に放置したゆで卵のような生温い瞳で見守られ、

わたしは健やかな毎日を過ごしていました。

中本さんと村上くんの二人に関しては、私立探偵が自ら説得に赴いてくれたらしいです。侃々諤々の話し合いは二日二晩白熱し、その結果として、私立探偵と中本さんと村上くんの三人は、週末は一緒に飲みに行く仲になったのだそうでした。

ひょんなことから生まれる世代を超えた友情に深い関心を覚えつつ、わたしは良い引越し先を見付ける為、インターネットの通信講座を始めてみました。可能な限り離れた人気のない立地で、できれば深夜の内に速やかに引越し作業を済ませられるのが良いですね。すぐ近くに警察の派出所があってくれれば、尚良しといったところです。

(後書き)

読了ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0088y/>

究極バーサークスVS至高ヴェルセルクス

2011年11月14日00時37分発行